

北西の風に乗って日本海から運ばれる塩分、アルカリ骨材反応が懸念される骨材の賦存など、北陸地区のコンクリート構造物はきびしい環境にさらされている。良質な社会資本を構築、維持するにはそれらの課題に対応する必要がある。日本コンクリート工学協会（JCI）はコンクリート診断士資格を設け、コンクリート構造物の劣化診断を適切に行える人材に「お墨付き」を与えている。しかし実際に診断業務を行う機会が少ない

と、適切な診断を下すのには必ずかしの指摘もある。そのため診断士間の情報交換を密にし、あるいは研修会・講習会を通じて技術の向上をはかるため、各地で診断士会が誕生している。北陸地区では新潟を除く3県で設立されており、福井と

富山の診断士会は生コン業界の技術者が会長を務めている。

富山県コンクリート診断士会は04年3月26日設立。福井宇部生コンクリートの石川裕夏常務が設立以来、会長の任にあり、全国の診断士会の先駆的存在であり、石川会長は他県の診断士会の

が認知されるようになり、福井県では同資格を高く評価しているとい

富山県コンクリート診断士会は昨年7月14日、正会員41人、賛助会員4社で発足した。会長には富山県生コン工組技術委員長の安川栄志庄東生コンクリート工業副工場長

が選任された。①コンクリート診断技術に関する情報の収集と会員への提供②JCIのコンクリート診断士登録、更新への支援③会員の継続学習制度（CPDS）の支援、知識・能力向上のための活動④会員相互の親睦と連絡などを行う計画だ。

設立総会には羽江司郎富山県生コン工組理事長

が必要があると言われる。コンクリート技士・主任技士とともに診断士の資格取得をめざす生コン技術者も多い。現在、3つの診断士会ともに有資格者を対象としているが、

今後は資格取得の支援も検討課題になると思われる。あわせて診断士会相互の連携を密にすることで、福井県のように認知度が高まることが期待される。

富山県コンクリート診断士会が設立された。富山県コンクリート診断士会が設立された。富山県コンクリート診断士会が設立された。

富山県コンクリート診断士会が設立された。富山県コンクリート診断士会が設立された。富山県コンクリート診断士会が設立された。

3県にコンクリート診断士会

福井 富山 生コン技術者が会長

設立総会、講習会に招かれ、福井県診断士会の活動を紹介することも多い。会員は現在39人で、福井県生コン工組など10団体が賛助会員となっている。

福井県診断士会は講習会、研修会、会員による発表会など活発な活動を行っている。こうした取り組みによって、診断士

が出席したほか、鳥居和之金沢大学大学院教授が「富山県の反応性骨材とASR劣化構造物の特徴」をテーマに特別講演を行った。

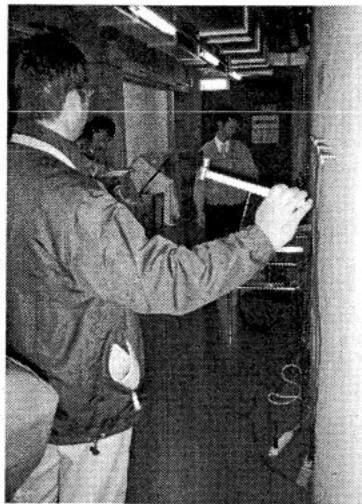
石川県コンクリート診断士会は06年6月に発足。奥田由法アルスコンサルタンツ地域整備部長が会長、川村満紀金沢大学名誉教授が顧問を務めている。講習会や見学会などを通じて、会員の技術力向上を図ってい

る。生コン工場は荷卸し時点の品質を保証している。しかし生コン需要が大きく伸びる可能性は低く、生コンの技術者も構造物の品質確保、あるいはその維持管理に関心を持つ

富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。

富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。

富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。



福井県診断士会では非破壊検査研修会など活発に活動している



富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。富山県診断士会が設立された。